

取組名称	持続可能な地域を未来へつなぐ「菜の花エコプロジェクト」			団体設立後の経過年数	18年
応募取組主体名称	NPO法人愛のまちエコ倶楽部	活動地域	滋賀県東近江市	応募取組の活動年数	25年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

「菜の花エコプロジェクト」は、1998年に東近江市（旧愛東町）からはじまった、びわ湖のせっけん運動をルーツとし、菜の花栽培を含む菜たね油製造、そして廃食油の回収からバイオディーゼル燃料の精製を行う、廃食油の地域内資源循環の取り組みです。2005年には、本プロジェクトの拠点である「あいとうエコプラザ菜の花館」（東近江市）が建設され、指定管理者であるNPOと、市民と、行政と、そして専門家との協働で、25年にわたって継続しています。

実績の要旨

わたしたちが製造しているカーボンニュートラルなバイオディーゼル燃料は、約74tのCO2削減（2022年度）を行っています。また、もみ殻くん炭は、2020年に炭素貯留でCO2を削減できる資材として、J-クレジット制度の認証を受けています。一方、具体的な資源循環の取り組みを活かした環境学習も強みであり、「菜の花エコプロジェクト」をテーマとした企業や学校向け研修プログラムを提供しています。市内の給食では、本プロジェクトから生まれた菜たね油を食べる「菜の花給食」、地域の小学校では、種蒔きから搾油体験までを行う「菜の花学習」も行っています。

取組評価の要旨	環境への貢献	可燃ごみとなる廃食油を資源とし、粉せっけんやバイオディーゼル燃料を製造。びわ湖の水質保全や気候変動の対策となるCO2削減等に寄与。
	社会・経済への貢献	資源循環の取り組みから生まれる商品を販売。プロジェクトを代表する菜たね油は、地域の道の駅や農家レストラン、学校給食等で利用。
	地域資源の活用	地域の家庭や学校給食から出る廃食油を再利用。ほかにも、近畿最大級の米産地であることから、処理に困っていたもみ殻を土壌改良材の“くん炭”に。
	普及・汎用性	東近江市特有のものではなく、どの地域でも出てくる廃食油をリサイクルしていること。市民のプロジェクトへの参加機会への多様さも特徴。
	革新・ユニーク性	資源循環モデルを構築し、単一の問題だけでなく、水質保全やCO2削減、エネルギーの自給、食と農の再生という拡がり地域自立に向かう実践に。
	継続性	市民・NPO・行政・専門家の協働で、25年続いてきたプロジェクト。地域資源から生産物を生んでいる点も大きな強み。

展望の要旨

「菜の花エコプロジェクト」を基盤に、「これからの新しい暮らしかた」を創るため、農村地域への移住や新規就農支援、生業づくりの活動を展開中。